



ワークショップ
(学校と区役所で交互に開催)

ワークショップには、学校全体の代表として生徒会の委員15人が参加。人数が多いときに、代表を選んで決めるやり方は、市民が市長や市議会議員を選んで市政運営を委ねると同様の考え方といえます。



事例研究
「豊平区・陵陽中学校編」

生徒たちの熱意が、地域の力を引き出した

「まちづくりへの参加」と言っても、構えることはありません。

まずは、自分たちの地域に目を向けてください。

ここでは、豊平区・陵陽中学校の取り組みを例に、市民自治の考え方と自治基本条例の必要性などをお伝えします。

「とよひらおそうじ隊」～結成までの過程

陵陽中学校と“ご近所”の豊平区役所。その生徒会と職員が一体となって、昨年12月から「地域に役立つことを考える」というテーマで、定期的にワークショップを開催してきました。

主役は、地域の住民である生徒たち。わが街の良い所・足りない所を考え、どんな街にしていきたいのかを話し合い、そのために自分たちができることをまとめました。

こんな街にしたい!

- ◎ごみが少なくてきれいな街
- ◎安全で快適な街
- ◎公園や遊ぶ場所が多い街
- ◎ふれあいを大切にする街

具体的にできること

- 地域のひとと月寒公園の大そうじ
- 地域交流を進めるための豊平区のキャラクターを使った創作劇
- 子供の視点で見た道路の危険な場所マップづくり
- カラスよけの囲いの作成

今回は、生徒たちの希望が多かった「月寒公園の大そうじ」に決定。豊平区役所は、「生徒たちが自分たちで考え、行動する」——この環境美化活動を、15歳以下の市民自治に対する意識を育成するための事業として、全面的に支援することとしました。

誌上インタビュー

まちづくり最前線②



豊平区保健福祉サービス課(ワークショップからおそうじ隊まで参加した職員)
前田 未希さん



陵陽中3年・生徒会会長 塚野拓人さん(右)
陵陽中2年・生徒会副会長 齊藤大武さん(左)
陵陽中教諭 鍋島賢さん(中央)

まずは、実際に活動した感想を。塚野今回は地域の人たちとも交流できて、単なるごみ拾いではなく「地域活動」にすることができたと思います。齊藤地域の人たちと協力して、もっと幅広い活動に挑戦してみたいですね。鍋島全員に感想文を書いてもらったんですが、「自分たちだけでは成し得ない、より大きなことができた」と感じた生徒も多かったようです。前田私も、今回、地域の皆さんと直接語り合うことがいかに大切かを実感しました。こうした交流が契機となって、地域や市政に関心を持ってもらえるようになるのですから。——こうした活動の輪を広げていくには、どうしたらいいと思いますか？塚野あまり難しく考えずに、一般の人が感覚的に「おもしろそうだな」と思える活動を増やすことでしょうか。鍋島中学生だとまだまだ受け身。「自分たちの街」という思いがより高まるよう、活動に参加するきっかけづくりが